

会議等結果報告書			
会議区分	会議・打合せ・協議	文書番号	上富福祉第 号
		決裁期日	平成31年2月13日
名称	第4回上富良野町地域福祉計画策定委員会		
日時	平成31年2月12日(火) 13時00分～15時00分		
場所	保健福祉総合センターかみん 2階研修室		
出席者	(委員) 別紙名簿のとおり (出席委員10名、欠席委員5名) (役場) 鈴木課長、武山主幹、末永主査、飯村主査、島田主事 (社会福祉協議会・オブザーバー) 黒川主任		
内 容	<p>会長の司会により議事が進行。</p> <p>(議題)</p> <p><b>1. 第3次地域福祉計画(案)・概要について</b></p> <p>① パブリックコメントの実施について</p> <p>平成30年12月25日から平成31年1月24日までの間、パブリックコメントを実施。特に寄せられた意見等はなかった。</p> <p>② 第3次地域福祉計画概要について</p> <p>別添資料に基づき、第3次地域福祉計画の概要について計画策定の背景と目的、計画の位置付け並びに計画期間、今後の基本目標について説明。本計画概要をもって2月22日開催の厚生文教常任委員会における議会説明を行い、更に一般配布用として8ページのレイアウトによる印刷製本外注を行う予定である。</p> <p><b>【意見】</b></p> <p>(委員) 今後、分野横断的な連携強化を行っていくとのことだが、それらの具体的な解釈を今後どのようにしていくのか。例として挙げると、介護にはかからないがそういった高齢者はどこで拾うのかなど、何かの形で示していかなければならぬ。福祉計画は単に努力目標としての位置付けではないはずで、例えば今後こういうサービスが町内にあればいいとか、いつ迄にどうしたいかなどを示していただけると、民間事業者の立場としても参考していけると考える。</p> <p>(事務局) 地域福祉計画は総論的な位置付けのものであるが、今後ある程度のテーマごとに具体案を示していければと考える。</p> <p><b>2. 上富良野町のボランティア活動について</b></p> <p>出席委員・事務局職員で二つのグループを編成、各グループにおいて「上富良野町のボランティア活動について」をテーマに意見交換を実施。集約した意見はグループ発表により全体共有を行った。</p>		

# 会議等結果報告書

内 容	<p>第1グループ (構成委員) 山本勉委員、角波委員、二宮委員、檜野委員、谷江委員 (進行) 鈴木課長、(グループ発表・記録) 飯村主査、(オブザーバー) 社協黒川主任</p> <p>○ 主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもに関するものは、有償でないとダメではないか?</li><li>・除雪は有償が良い?</li><li>・昔はお金の問題ではなく、地域でやって当たり前という考えがあったが、現在は昔のような地域のつながりが弱くなっている。</li><li>・昔と今の社会情勢の変化により、有償・無償を含め整理が必要（何が必要か？すぐにやらないといけないものは何？）</li><li>・自助・公助の部分は必ずボランティアの介入が必要となる。</li><li>・ボランティアは何が必要で、何が足りてないのか？また、今の分野で無いものはないのか？</li><li>・ボランティア団体等、登録はたくさんあるが人数は足りているのか、まだ足りないのか？（年配者が多く、出来るものが限られている。）</li><li>・事業として実施するものとボランティアとして実施するものがごちゃ混ぜになっている。</li><li>・有償ボランティアの事業費を行政としてどう支出するのか。</li><li>・事業として必要なもの、重要なものは「有償」で、そうでないものは「無償（ボランティア）」で。</li><li>・こういった場に議員も出席させてもらえば・・・必要な事業や経費を知ってもらうことも必要。</li><li>・時代が変わってきた。昔は地域で助け合うのが普通。ボランティアという言葉もなかったが、地域で助け合うのが当たり前だった。</li><li>・必要なものは有償であるべきなのか、何が必要なのか整理が必要。</li><li>・中・高校生の除雪ボランティアは良い経験。子ども達の教育の面でも良い。もっと色々と出来ることがあると思う。もっと増やしても良い。</li><li>・アンケートでボランティアの必要性は8割の町民が感じているが、実際にボランティアに出てこないのは目的がはっきりしていないからではないか？</li><li>・何をするのにどのくらいの人が必要なのか、漠然とではなく目的を示せば出てくれる人がいるのでは？</li><li>・何が出来て、どのくらいの時間支援できるのかを登録しておいて、その中からお手伝いできそうな人に連絡を行うようにしてはどうか？</li><li>・ボランティアに出ている人の達成感を得られるような働きかけが必要。</li><li>・発信の仕方に工夫をしたら、登録者が増えるのでは？</li><li>・町でボランティア活動を行うことは、企業でいうところの宣伝。町で行うことで次の世代の活動に繋がっていく。</li></ul>
-----	---

# 会議等結果報告書

内 容	<p>第2グループ (構成委員) 川鍋委員、佐藤委員、芳賀委員、谷口委員、村上委員 (進行) 武山主幹、(グループ発表) 末永主査、(記録) 島田主事</p> <p>○ 主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ボランティア担い手の高齢化が年々進み、人員増加には至っていない。人員的には十分とは言えず、歳を重ねると思うように動けないとの声も聞かれる。</li><li>・ボランティアは何かトラブルがあると責任の所在が明確でなくなる。有償無償に関わらず、担う側の意識的な課題もある。</li><li>・介護保険に該当手前の方に対する救済策や何かしらの手助けの方法が探れないかと思う。そういった方を対象とした「まごころサービス」を社協で実施しているが、利用料設定が高いため利用に結びついていない。まごころサービスをアレンジして有償ボランティアに転換できないものか。担い手として、どの程度の対価があれば現実的か。</li><li>・隠れたボランティアも相当ある。例えば個人や老人クラブで実施する草取りや落ち葉拾いなどの清掃活動。全町的に見ると花壇整備などもあり、これらのボランティア活動はもっと日の目を見ることがあっていい。</li><li>・町内会等の小単位で地域として相互に助け合っているケースはたくさん存在するが、それが叶わない地域は誰に頼んでいいのかわからない人もいるのでは。「ちょボラ」以外にもボランティア情報の発信方法を探るべき。</li><li>・全てをボランティアで賄おうとしても無理。本当に必要なものを選択しなくてはダメ。</li><li>・町内会で仲良くお付き合いが出来ていれば、そこから繋がるボランティアもある。若い人が入ってきてくれれば流れが変わる。</li><li>・高齢者（出し手）から若い人（受け手）への「感謝」のフィードバックがあることが大切で、そこから二度三度のボランティアに繋がる。せめて「ご苦労様」という労いの言葉があれば・・。</li><li>・アンケート結果では、除雪のお手伝いなら出来ると回答した方が 26.6%いる。一日限定でワッとやると、それなりに人は集まるかもしれないが、毎日あるいはシーズンを通じてという募集方法なら果たしてどの程度の人が集まるか・・。除雪は高齢者事業団等、有償の事業実施者がいるので、ニーズがあっても進めづらく、競合の可能性もある。</li><li>・どういうボランティアでどのくらいの時間なら参加出来るのか、ボランティア登録者に意向確認をした。「都合のいい時間」とあったので、「今日来て」と依頼すると都合が悪いと返され、マッチングに苦慮。</li><li>・配食サービスの担い手が減少し、一人で何件も抱えている状況。急な都合があっても、それなりの件数を抱えているので代替者が見つからない。食べ物を配達するので、不在の時は何度も繰返し訪問する必要があって大変な苦労をしており、何かしらの改善方法を考えるべき。冬場は積雪などで交通事情も悪化し、女性ボランティアからは冬場の運転に不安があり、続けられないとの声も聞かれる。</li><li>・配食サービスは利用者の統計データを取って、居住地などを分析し、小口の件数を何人かに手分けして依頼する方法に転換できないものか。急な都合が入っても、小口の割当てならカバーできる体制が期待でき、担い手にも無理がかからないと思う。</li></ul>
-----	--

## 会議等結果報告書

- ・土地を保有していない方が、空き地となっている民地に雪を捨てることが問題化している。町から土地所有者に承諾を取付けるよう当たってもらえば良いのだが。承諾いただける土地所有者に対し、固定資産税を安くするくらいの行政対応があつても良い。
- ・ボランティアの実施規模はいたずらに範囲を拡げすぎるよりも、町内会くらいの人員規模で行うのが一番身動きが取れて良いと思う。
- ・ボランティアニーズに関しては、民生委員が高齢者宅を回っており、訪問先からあれこれニーズを聞いているのではないか。

### 3. その他

次回の第5回策定委員会は平成31年3月4日（月）18時からの開催としてよろしいかお伺いする。

（各出席委員の了承を得て閉会。会議終了 15:00）

内 容

上富良野町地域福祉計画策定委員会委員名簿

平成 30 年 7 月 11 日から平成 31 年 3 月 31 日

区分	所属団体・機関等の名称	氏 名	2月12日 出欠
障害者団体	上富良野町身体障害者福祉協会 副会長	山 本 秀 男	×
	手をつなぐ親の会 会長	佐 藤 祥 一	○
	つばさ会 会員	宮 崎 守	×
	NPO法人 なないろニカラ 代表理事	二 宮 利 和	○
福祉団体	上富良野町社会福祉協議会 事務局長	角 波 光 一	○
	社会福祉法人わかば会 理事 (ケアハウスかみふらの施設長)	谷 口 靖	○
	社会福祉法人富良野あさひ郷 特別養護老人ホーム北の峯ハイツ 生活支援課長	檜 野 真由美	○
	ボランティアセンター運営委員会 委員長	川 鍋 まさ子	○
その他団体	上富良野町女性団体連絡協議会 副会長	村 上 孝 子	○
	上富良野町老人クラブ連合会 副会長	芳 賀 実	○
	上富良野町民生児童委員協議会 会長	山 本 勉	○
	上富良野町商工会青年部 部長	加 藤 雅 也	×
	上富良野町住民会長連合会 会長	巽 俊 明	×
町民公募	公募委員	谷 江 彩也子	○
	公募委員	高 橋 美 来	×